

認定品種利用による、飼料用トウモロコシの生産性の向上

要約

飼料用トウモロコシの認定品種 3 品種 (P2088、KD731、KD777New) の多収性や管内南部地域における適性を明らかにして、経営改善に与える効果を検討した。その結果 P2088 が生産者から収量及び経営面で高い評価を受け、地域の推進品種としての適性が確認された。

○ 展示のねらい

飼料用トウモロコシの認定品種の多収性や管内南部地域における適性を明らかにして、経営改善に与える効果を検討する。

○ 主な成果

| 品種 | RM | は種時期 | 絹糸抽出期 | 調査日 | 稈長 | 着雌穂高 | 倒伏 | 折損 |
|----------|-----|-------|-------|-------|-----------|-----------|----|----|
| P2088 | 118 | 4月15日 | 6月28日 | 8月6日 | 300.5±4.1 | 133.6±2.7 | 0 | 0 |
| KD731 | 123 | 4月17日 | 7月9日 | 8月24日 | 295.8±4.3 | 149.8±3.7 | 0 | 0 |
| KD777New | 127 | 4月17日 | 7月10日 | 8月24日 | 293.3±2.4 | 154.9±2.6 | 0 | 1 |

| 品種 | RM | 調査日 | 平均乾物収量 | | | 推定TDN収量 kg/10a | TDN含量 % | 収穫時 熟度 |
|----------|-----|-------|--------------|--------------|---------------|-------------------|------------|-----------|
| | | | 茎葉 kg/10a | 雌穂 kg/10a | 全体 kg/10a | | | |
| P2088 | 118 | 8月6日 | 1,296.3±36.9 | 1,396.0±41.6 | 2,692.3±72.9 | 1,941.0±53.0 | 72.1 | 黄熟中 |
| KD731 | 123 | 8月24日 | 1,220.7±58.4 | 1,492.9±41.7 | 2,713.6±120.8 | 1,979.4±88.6 | 72.9 | 黄熟後 |
| KD777New | 127 | 8月24日 | 962.0±32.1 | 965.7±53.7 | 1,947.6±71.9 | 1,397.3±55.3 | 71.8 | 黄熟後 |

P2088 と KD731 が KD777New よりも収量に優れた。また P2088 は茎葉部と子実部のバランスがよく、8月上旬の収穫でも十分な収量を確保できた。KD731 は雌穂重が他の 2 品種に比べて大きく、そのため推定 TDN 収量も高くなったが、乾物収量では P2088 も遜色は無かった。KD777New は稈径も細身で稈長では遜色ないものの、収量的には他の 2 品種よりも低い結果となった (表 1、2)。

なお、3 品種ともに倒伏や折損、病害虫の発生はほとんど見られなかったが、KD731、KD777New では天候不順による湿害の影響が見られた。

必要経費は 3 品種とも肥料代 1,800 円/10a、作業労賃 2,267 円/10a、種子代 5,129 円/10a と変わらなかったため、TDN 収量 1kg 当たりで比較すると P2088 と KD731 が 2.1 円、KD777new が 2.9 円で P2088 と KD731 が 0.8 円低コストとなった。

○ 今後の方向性

早播きの品種は、P2088 が高評価を得て利用が進むと考えられる。組み合わせる品種については展示ほの成績から KD731 が考えられるが、着雌穂高がやや高いことから栽培の際には倒伏に留意する必要がある。

実施機関：芳賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：真岡市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315